第 676 回兵庫地方最低賃金審議会

議事録

令和 7 年 7 月 15 日（火） 10 時 05 分～11 時 45 分	
兵庫労働局 第 3 共用会議室	
公益代表委員	坂本委員、千田委員、庭本委員、三上委員
労働者代表委員	小菅委員、小西委員、中西委員、森田委員
使用者代表委員	倉本委員、谷口委員、松岡委員、松下委員、吉川委員
事務局	金成労働局長、岡本労働基準部長、安積賃金室長、 山本賃金指導官、村田労働基準監督官、山中労働基準監督官
(1) 兵庫県最低賃金の改正諮問について (2) 兵庫県最低賃金専門部会の設置及び決議の取扱いについて (3) 専門部会の議事の公開について (4) 兵庫県特定最低賃金の改正の必要性の有無にかかる審議の進め方について (5) その他	
議 事 内 容	
<p>○山中労働基準監督官</p> <p>ただ今から、第 676 回兵庫地方最低賃金審議会を開会させていただきます。</p> <p>山口会長と松下委員におかれましては、少し遅れるというお話ですので、始めさせていただきます。本日は、労働者側委員の堀井委員が御欠席ですが、最低賃金審議会令第 5 条第 2 項の規定による定足数を充足しておりますことを御報告いたします。</p> <p>それでは、会長代理の千田委員、これからの議事進行をよろしく願いいたします。</p> <p>○千田会長代理</p> <p>それでは、第 676 回兵庫地方最低賃金審議会の議事に入っていきたいと思います。</p> <p>各委員の皆様には、お忙しい中、御出席いただきありがとうございます。</p> <p>その前に、本日の会議は公開としておりますが、傍聴される方におかれましては、受付でお渡ししております遵守事項に記載しておりますとおり、注意事項を守って傍聴いただきますようお願いいたします。</p> <p>最初に、事務局から報告があると伺っていますので、事務局からお願いいたします。</p>	

○安積賃金室長

事務局から、1点御案内させていただきます。

令和7年7月8日付けで兵庫労働局長が異動となっており、新たに着任しました金成局長が当審議会に初めて出席させていただいております。

そのため、金成局長から一言御挨拶をさせていただきます。

○金成労働局長

皆様、おはようございます。

本年7月8日付けで兵庫労働局長を拝命いたしました金成と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

各委員の皆様には平素より労働行政の円滑な運営に御理解と御協力を賜り感謝申し上げます。また、第55期の審議会委員として本審議会の運営に御尽力を賜りますことを重ねて感謝を申し上げます。

本年度第1回目となる審議会が5月に開催され、その際、会長に山口委員、会長代理に千田委員が選任されたと伺っております。山口会長、千田会長代理におかれましては、本審議会の円滑な運営にあたりまして特に御苦勞をお掛けすることになるとは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、最近の賃金に関する統計を見ますと、人手不足が続く中、名目賃金は上昇していますが、それを上回る物価の上昇が続き実質賃金は減少しております。一方、企業経営を取り巻く状況を見ますと、景気は緩やかに回復しているもののウクライナや中東での軍事紛争が続くと共に、アメリカの関税政策により先行きの不透明感が増しております。ただ、このような情勢の中で政府におきましては最低賃金を含む賃上げを政府の重要課題に掲げており本年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2025」や「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2025年改訂版」におきましては、最低賃金については適切な価格転嫁と生産性向上支援により影響を受ける中小企業・小規模事業者の賃上げを後押しし、2020年代に全国平均1,500円という高い目標の達成に向け、たゆまぬ努力を継続するとされているところです。

本日、この後、兵庫県最低賃金につきまして改正諮問をさせていただきますが、例年以上に厳しい審議日程の中で御審議をお願いすることとなり、各委員の皆様には大変御苦勞をお掛けすることとなりますが、円滑な審議会運営の確保につきまして御協力をお願い申し上げ、着任の御挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○千田会長代理

ありがとうございました。

では、議題についての審議に入ります。

それでは、議題(1)「兵庫県最低賃金の改正諮問について」、事務局から説明をお願いいたします。

○安積賃金室長

事務局から説明させていただきます。改正諮問の前に、地域別最低賃金の流れについて説明させていただきたいと思います。お手元にお配りしています資料1を御覧いただけますでしょうか。

(以下、資料1について説明)

○千田会長代理

ただ今の説明に関して、何か御質問等はありませんか。

○各委員

(なし)

○千田会長代理

それでは、事務局は諮問の準備をお願いいたします。

○山中労働基準監督官

では、これから、労働局長から審議会会長へ諮問させていただきます。

(局長から会長代理に諮問文を手渡す。)

○千田会長代理

ただ今、局長から諮問文を受け取りました。事務局は、各委員に諮問文写しの配布をお願いします。

(事務局が各委員及び傍聴人に対し、諮問文の写しを配布。)

○千田会長代理

それでは、事務局は諮問文の読み上げをお願いします。

○山中労働基準監督官

兵労発基 0715 第1号

令和7年7月15日

兵庫地方最低賃金審議会

会長 山口 隆英 殿

兵庫労働局長

金成 真一

最低賃金の改正決定について(諮問)

最低賃金法(昭和34年法律第137号)第12条の規定に基づき、兵庫県最低賃金(昭

和 55 年兵庫労働基準局最低賃金公示第 1 号) の改正決定について、新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 2025 年改訂版 (令和 7 年 6 月 13 日閣議決定) 及び経済財政運営と改革の基本方針 2025 (同日閣議決定) に配慮した、貴会の調査審議をお願いする。

以上です。

○千田会長代理

次に事務局から、改正の諮問に至った経緯について、説明をお願いします。

○安積賃金室長

では、事務局より改正諮問に至った経緯を説明させていただきます。

お配りしております資料 4 をご覧いただきます。

(以下、資料 4 について説明)

以上、最低賃金改正の諮問に至った状況に関する資料の説明をいたしました。

最低賃金引上げは政府の重要課題であり、今回の改正諮問文にも政府方針に配慮する旨となっておりますことを踏まえ、今後の御審議をお願いいたします。

○千田会長代理

ただ今の説明に関して、何か御質問等はございますか。

○松岡委員

今、御説明いただきました資料の 146 ページ、こちらが「経済財政運営と改革の基本方針 2025」ですが、諮問文にこれに配慮するようにと記載されておりますが、実際黄色でマークされている「2020 年代に全国平均 1,500 円」という具体的な金額が示されておりますが、この具体的な金額に配慮せよというように受け取ってよろしいでしょうか。

○千田会長代理

事務局いかがでしょうか、お願いします。

○安積賃金室長

「2020 年代に全国平均 1,500 円」という目標を掲げておりますので、それも含めて配慮していただければと思います。

○松岡委員

ありがとうございます。

○千田会長代理

その他に何かございますか。

○各委員

(なし)

○千田会長代理

では次に、議題（２）「兵庫県最低賃金専門部会の設置及び決議の取り扱いについて」に入ります。

審議会として、兵庫県最低賃金の改正に係る調査審議をするため、「専門部会」を設置することになっています。

事務局から、この専門部会の設置等についての手続きや専門部会での決議の取扱についての説明をお願いします。

○山中労働基準監督官

それでは、まず、兵庫県最低賃金専門部会の設置について御説明させていただきます。

最低賃金法第 25 条第 2 項の規定により、最低賃金の改正について調査審議を求められたときは、審議会の下に専門部会を設置しなければならないとされております。

なお、専門部会の委員数は 9 人以内とされ、公労使各 3 人の委員で構成することとされております。

公益代表委員の選任につきましては事務局からの依頼、任命となりますが、労使の代表委員の選任につきましては、最低賃金審議会令の規定により一定の期間を定めて候補者の推薦を公示し、推薦のあった方から兵庫労働局長が任命をすることとなります。

今年度の兵庫県最低賃金専門部会の労使の代表委員の推薦公示につきましては、本日、この会議終了後に行い、公示期間は 7 月 25 日（金）までとさせていただきたいと思っております。

また、最低賃金法第 25 条第 5 項により行うこととされている関係労使の意見聴取に関する公示につきましても、本日この会議終了後に行い、こちらの期間は 7 月 28 日（月）までとさせていただきたいと思っております。

続きまして、専門部会の決議について説明させていただきます。

最低賃金審議会令第 6 条第 5 項では、「審議会は、あらかじめその議決するところにより、最低賃金専門部会の決議をもって審議会の決議とすることができる。」とあります。本年度につきましても、専門部会においてこの令第 6 条第 5 項を適用するか否か御確認をお願いいたします。

なお、今申し上げました最低賃金法等の各条文につきましては、委員の皆様にお配りしております薄ピンク色の「兵庫地方最低賃金審議会 令和 7 年度審議会委員資料」に記載しておりますので、後ほど、御確認いただければと思います。

事務局からは以上でございます。

○千田会長代理

事務局から、専門部会の手続きと決議に関する説明をしていただきました。
何か御質問等ございますでしょうか。

○各委員

(なし。)

○千田会長代理

それでは、専門部会での決議についてですが、この兵庫の審議会では従来から専門部会が全会一致で決議した場合は、この審議会令第6条第5項を適用して本審での議決としております。本年度につきましても従来同様、専門部会が全会一致で決議した場合は、令第6条第5項を適用することにしたいと思いますが、如何でしょうか。

○各委員

異議なし。

○千田会長代理

それでは、今年度につきましても、専門部会が全会一致で決議した場合は、令第6条第5項を適用し、この審議会での決議とすることとします。

続いて、次の議題(3)「専門部会の議事の公開について」に入ります。

今年度も、これから専門部会を設置して地域別最低賃金の改正審議に入っていくこととなりますが、昨年度の審議会において「公労使三者が集まって議論を行う部分については、公開とすることが適当」であることを確認させていただいています。そのため、今年度におきましても、この本審とともに金額審議を行う専門部会も含めて昨年と同様に公開することといたしたいと考えています。

ただし、公労、公使といった2者間以下での協議の場に関しては、「率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがある場合」等に該当すると考えられますので、昨年度と同様に非公開としたいと考えています。よろしいでしょうか。

○各委員

異議なし。

○千田会長代理

それでは、議題(4)「兵庫県特定最低賃金の改正の必要性の有無にかかる審議の進め方について」に入ります。

事務局から説明をお願いします。

○安積賃金室長

産業別となる特定最低賃金につきましては金額改正の申し出の後、局長から、まず改正の必要性についての諮問を行い、そこで改正の必要性ありとなった場合、次に金額改正の審議を始める流れとなります。

審議会資料2、ページ番号では11ページ目を御覧ください。これは昨年度の兵庫地方最低賃金審議会での特定最低賃金の審議の流れを示したものでございます。参考までに昨年の実際の日程も記載しております。

本日諮問させていただきました地域別最低賃金、兵庫県最低賃金では、諮問から答申という流れですが、特定最低賃金の場合は、分かりやすく言いますと2段階、つまり、諮問、答申を2回ずつ行うこととなっております。

金額改正の申出があり、この申し出を受理しますと、初めに、金額改正の必要性の有無についての諮問を行います。そこで、必要性についての審議をしていただき、その結果、「改正の必要性あり」という答申になりますと、次に金額改正の諮問を行い、その後、金額改正に関する審議を行い、答申をいただくという流れになります。

なお、当局では改正必要性の有無の諮問の際に、審議の結果「改正の必要性あり」と認められた場合には、金額改正の調査審議もお願いするという形で、同時に金額改正に係る諮問も行っております。

この特定最賃の金額改正の必要性の有無につきましては、当審議会では、令和元年度までは、全ての業種の特定最賃の金額改正の必要性を本審で一括して審議し、そこで全ての産業毎の金額改正の必要性の有無を判断していただき、その後、それぞれの専門部会で、改正金額についての審議をしていただいております。

しかし、その後、この改正の必要性の有無についても、その産業及び労働の実情をよく知る立場にある業界の委員がそれぞれ選任されている特定最賃専門部会で議論をして結論を出すのが妥当ではないか、という御意見が委員から提案され、令和2年度からは特定最賃の金額改正の必要性の有無についての審議は本審では行わずに、最初から各専門部会を設定して、その専門部会で行っていただいております。

今年度は、すでに各関係労働組合から7つの産業にかかる特定最低賃金の改正申出を受けております。

事務局といたしましては、次回の審議会におきまして、労働局長から特定最低賃金の改正の必要性の有無等について、諮問を行う予定としております。

そこで、まず、この特定最低賃金の改正の必要性の有無についての審議の進め方をこの本審で一括して行うのか、または、各特定最賃専門部会で行うのかについて、御審議いただければと思います。

○千田会長代理

ただ今、事務局から特定最低賃金の金額改正の必要性の有無についての審議の進め方について、説明がありました。

この兵庫の最賃審議会では、令和元年まで特定最賃の改正必要性の有無については本

審で一括して審議を行っていました。そして、本審において、改正の必要性ありとの結論が出た場合に、各専門部会で金額審議のみを行ってきました。

しかし、近年は産業ごとに業界事情も異なり、金額審議だけでなく改正の必要性の有無についても、各業界に深く通じた専門部会の委員に判断を委ねるべきという御意見が使用者側委員からなされ、令和2年度以降は、7つある各専門部会で、業種毎に審議を行ってきた経過があります。

特定最賃について、7つの産業について既に改正申し出が労働局長になされていますので、今後、審議の日程調整を行う上でも整理しておく必要があります。今年度、この特定最賃の改正の必要性審議をどのように進めていくのか、本日御審議いただければと思います。

これまでの経緯もありますので、労使それぞれから御意見を伺いたいと思います。

では、まず、労働者側委員からお考えをお聞かせ願えますか。どなたからかお願いできますか。

○森田委員

それでは、森田が説明させていただきます。

先ほどこれまでの経過についての説明がされました。

労働者側としましては、過去の歴史を重視して健全で良好な労使関係のもと、特定最賃に取り組んでいきたいと考えております。その上に立って、ここ数年繰り返し改正決定の必要性の有無の審議については、令和2年当時、コロナが発生した当時になりますが、その前に戻すことが望ましいということは何度も申し上げてきましたが、使用者側からの円滑な運営に協力していくという旨の発言を踏まえまして、専門部会での審議に応じてきたということをお先ずもって御理解いただきたいと思います。そんな中、3年連続で毎年最低賃金の引き上げ幅が過去最高を更新しております。今年の春闘の回答状況を見れば、今回の引き上げ幅は更に高い水準となっており、労働者側の立場としましては、人手不足の観点、優秀な人材確保の観点、更には各産業の魅力をアピールするという観点からも特定最低賃金の改正の必要性については、各業種共異存はないものと考えております。また、兵庫県では本年2月5日に開催されました兵庫政労使会議において成長型経済の実現に向けて兵庫経済の好循環を加速させ、物価上昇を上回る賃上げ、生産性の向上、投資の拡大に向けて「オール兵庫」で取り組むことが確認されており、各産業の特定最低賃金の改正も兵庫経済の好循環を加速させることの一因になろうかと考えております。従いまして、一括審議に戻すことが妥当であると主張したいと思ます。

以上です。

○千田会長代理

ありがとうございます。それでは続きまして使用者側委員のお考えをお伺いしたいと思います。

○松岡委員

使用者側は松岡から発言させていただきます。

特定最賃につきましては3月10日の674回の審議会において、意向表明に対する意見を求められ、最低賃金を特別に設けて法的効力を持って労働力を特定業種に誘導すべきは、むしろ介護等のエッセンシャルワークではないのかと申し上げました。その1週間後に国会において国民民主党の田村議員が、著しい人手不足にある介護をはじめケア労働の分野に特定最賃を活用することで成長産業としての介護業界への労働移動と介護従事者に対する賃上げ実現が可能となり、人手不足の解消にも繋がると訴えられました。これに対し石破総理は、本来労使のイニシアティブに基づく制度である特定最賃に政府が利用促進、活用促進の旗を振ることは慎重であるべきだが、制度が趣旨を果たしているかは政治主導できちんと判断したいと回答されました。また、その後、自民・公明両党の幹事長は、エッセンシャルワーカーの人材確保に向けて特定最賃を検討する方針で一致し、福岡厚生労働大臣も他産業と人材の引き合いとなっている介護分野における処遇改善は喫緊の課題であり、特定最賃の活用については検討を進めて参りたいと発言されております。更に、経済同友会の新浪代表幹事も早々に介護職等のエッセンシャルワーカーの特定最賃を設定して欲しいと述べられております。

以上が新しい特定最賃への機運が盛り上がった今年3月の動きでありましたが、その後に肝心の労使において動きが見受けられないのは、非常に残念に感じております。

前置きが長くなりましたが、あくまで特定最賃は関係労使のイニシアティブによって成立するものです。今年の関係産別から従来通りの申し出があることは当然と受け止めております。しかし、去年はそれぞれ1回目の専門部会において使用者側の改正の必要性有り無しの意見は一致しておりませんでした。7業種全ての使用者側で当初より必要性の有り無しが一致しない限り、この場において必要性を一括で認めることは出来ませんので、本年もそれぞれの関係労使に加わっていただいた専門部会を開いていただき、その特定最賃改正の必要性の有無を含めました審議を実施することが適切と考えます。

以上でございます。

○千田会長代理

ただ今、労使それぞれの委員から、必要性審議の考え方等についての説明がありましたが、他の委員から御意見・御質問などございますでしょうか。

○森田委員

先ほど説明いただきましたが、労働者側としましては、使用者側からの円滑な運営に協力していくという発言を踏まえて、必要性についても専門部会で審議をしていくということでした。ただ、審議結果を見てみますと、根拠が明確でなく必要性無しとしている場合があり、円滑な運営と言い難いと考えられます。また、特定最低賃金制度そのものを不要とするような発言も見受けられますので、制度そのものについては専門部会でのテーマではなく別次元の議論と受け止めております。その場は改正の必要性の有無の

審議であって、必要性なしということを主張すること、これ自体は否定しませんが、その主張をするのであればデータに基づく根拠を示すべきであると考えております。特定最低賃金は同じ産業で働く労働者の賃金の引上げ、底上げ、格差是正を図って、産業内の公正な競争を確保することで、産業全体の健全かつ持続的な成長を促す役割を担っていると考えております。各産業の基幹労働者に対して相応しい水準に引き上げることによって、産業の魅力の向上、人材の確保定着を図って産業、企業の生産性向上と競争力確保に繋がることが期待出来ることが今一度、公労使で確認し合いたいと考えておりますので、どうかその点についてはお願いしておきたいと思っております。

また、昨年の審議会において専門部会で審議する場合と、本審で一括審議する場合に分けてそれぞれ審議していく方法を御提案しましたが、その点についてのお考えがありましたらお聞かせ願いたいと思っております。

○千田会長代理

ありがとうございます。ただ今の森田委員の御発言に対して何か使用者側からの御意見ございませんでしょうか。

○松岡委員

松岡から申し上げます。

最後の一括と分けてというところですが、具体的なやり方を御説明いただければ検討の余地があると思っておりますが、いかがでしょうか。

○森田委員

先ほど申し上げましたように、全体で上げていこうという機運がある中で、各業界、業種を見ても全体が、全てが悪いとは思っていませんので、そのあたりを分けて審議していこうかと申し上げているところです。

○松岡委員

オール兵庫のところについて、これは地賃の話でありまして、特賃の話ではないと私は考えておりまして、混同させていただくと我々もやりにくいなと考えております。まず特賃ですが、先ほど申し上げられましたやり方のところで方法論としてどのようにやっていくか具体的にお教えいただきたいのですが。

○森田委員

すみません。今日の段階で具体的なところは持ち合わせていないのですが、昨年堀井委員から御提案させていただきまして、今日堀井委員が欠席ということもありまして、また改めて御説明させていただきます。

○松岡委員

よろしくお願いいたします。

○千田会長代理

ありがとうございます。

確認ですが、現段階において労働者側としては必要性は本審において一括して審議されたいという意向で間違いないでしょうか。

○森田委員

はい。

○千田会長代理

使用者側としては昨年度同様、個別の専門部会で必要性の有無を審議するというお考えですね。

○松岡委員

はい。

○千田会長代理

そうすると現段階においては労働者側、使用者側で意見が一致していないということになりますので、これを踏まえて一度それぞれで意見調整等の打ち合わせをしていただく必要があると思いますので10分くらい時間を取りたいと思いますので、事務局において打ち合わせ場所の案内をお願いします。よろしいでしょうか。

○労使委員

はい。

(労使それぞれ別室で打ち合わせ)

○千田会長代理

それでは審議を再開します。

労使それぞれで調整いただいた結果の御意見をいただきたいと思います。

まず、使用者側いかがでしょうか。

○松岡委員

労側からお願いしたいのですが。

○千田会長代理

労側よろしいですか。

○小西委員

特定最賃の審議において必要性について一括で行うのが妥当だと思っています。

繰り返しになりますが、一つは毎年最低賃金の引上げが過去最高で3年連続で上がっていますし、各業種とも全体的に上がっていることは異論がないのではないかと。

もう一つは各産業の特定最賃の改正が兵庫経済の好循環を活性化させる一因になるのではないかとということで、今回も必要性について一括審議をお願いしたいと主張してきました。

一方で、それぞれの専門部会のこれまでの審議の中で、使用者側からの円滑な運営に協力していくという旨の発言を踏まえて審議に応じてきましたが、審議結果において根拠が明確でなく必要性なしとする場合があるということで、円滑な運営と言い難いところもありまして、そういったところも含めて一括でやってもいいのではないかと、ただ、個別でするにしてもそういった課題があるのではないかと考えております。

よろしくをお願いします。

○千田会長代理

ありがとうございます。それでは使用者側をお願いします。

○松岡委員

使用者側につきましても先ほど申し上げたとおりで変わりはありません。

この話を繰り返しても前に進まないと思いますが、私は先ほどから申し上げているのは方法論として、一括と個別と分けてやると森田委員がおっしゃっていたと思うのですが、そのこのところの方法論を詳しく御説明していただければ、その方法に関してこちらとしても考えるところはありますので、御説明いただければと思っているのですが、いかがでしょうか。

○小西委員

よろしいですか。

今は専門部会で個別に審議する場合と本審で一括審議する場合について、今どちらかで妥協というか一歩前に進めるという意味で、その方法として対応できるか具体的な内容を聞きたいと、そういうことですか。

○松岡委員

いえ、先ほど森田委員がおっしゃったのは、どういう意味でしょうか。

○森田委員

去年の最後の審議会でそういう発言をさせていただいたということで、我々として十分調整が出来ていないところがあるのですが、結果的に必要性有り無しのところが出てきたので、そこを分けて出来ないかと私は受け止めておりました。

○松岡委員

まさにそこでございまして、その方法論を詳しく御説明していただければ、こちらとしてもそれに応じて検討することは可能なのですが、実際どういう形でそれが行われるのか、これは事務局に聞くのが正しいのかも知れないですが、労側としてはどうお考えでしょうか。

○千田会長代理

では、事務局どうぞ。

○岡本労働基準部長

例えば、ここ数年段々と地賃と特賃の金額差が縮まっている業種があるのですが、一方でかなり開いていて、業績とかも良くて、ここはどう見ても改定の必要性があると審議会が判断した業種についてはこの本審の場で必要性ありとし、一方で、地賃が上がる都度一時的に特賃より地賃が上回り、改定して地賃より上回るが、翌年また同じ繰り返しをしている業種については、必要性を専門部会で審議するという方法もあり、他局でもこの方法を取っているところもあります。もちろんすべてを一括でという局もあり、いろいろなやり方があります。

○松岡委員

よろしいですか。

○千田会長代理

どうぞ。

○松岡委員

最後に非常に興味深い話が出てきたなと思っています。

そうすると、分けてもいいのではないかとってはおりますが、具体的に申し上げますと、昨年、塗料、鉄鋼、はん用機の3業種が1回目の専門部会の冒頭で使用者側が必要性ありと申し上げました。一方で、計量器、電子、輸送用、自動車小売りの4業種は1回目は必要性なしで、2回目以降に3業種は必要性ありとなり、自動車小売りは最終的に必要性なしとなりました。

ここを切り分けてさっき最後におっしゃった形になると、塗料、鉄鋼、はん用機の3業種については必要性ありとし、計量器、電子、輸送用、自動車小売りの4業種は必要

性なしと回答させてよろしいでしょうか。

○小西委員

何もなしで、去年の意向がそうだったから今年もそれと言うのも少し乱暴かなと思っております。前に進めるために、もう少し真摯な議論が必要かなと思います。よろしくお願ひします

○松岡委員

方法論としてそういう方法があると確認させていただいたままでありますが、やはり去年の経緯も踏まえて考えさせていただくというのが一番妥当な方法かなと思いますので、よろしくお願ひします。

○千田会長代理

ここで整理しますと、色々なやり方があると思いますが、いずれにしても今日決めるというのが難しいのかなと思います。あくまで一括でやるのか、個別でやるのか、新たに出てきた折衷案、一括でやる業種と個別でやる業種に分けるやり方でやるのか、その大方針だけ今日決めるのか、あるいは労使それぞれ持ち帰って次回の本審で決めるのか。3パターン、つまりオール一括、オール個別、折衷のどれで妥結出来るのか、そのあたりいかがですか。

○松岡委員

私は、近いところまで来ているのではないかと感じていたのですが、それぞれの打ち合わせ後、同じ話をされましたので困ったなというのが率直な感想です。近くまで歩み寄った所から進めていって、具体的なスキームをお示しいただければ我々としても考える所があると申し上げますがいかがでしょう。

○小西委員

一旦持ち帰って議論させてもらってよろしいでしょうか。

○千田会長代理

スケジュール的にどうですか。

○安積賃金室長

今年度スケジュールが非常にタイトですので、出来れば今日、結論を出していただくことが望ましいのですが。例えば、今年度の審議に必要性をどのように審議していくのか、3通り出ましたがそれを固めようとしたら本審の皆様で整理していただいてそこからスタートになるかと思ひます。ですので、例えば今年度はどちらかのやり方、令和元年以前の一括でするのか、それが出来ないのでしたら各専門部会でするのか決め

ていただいて、本年度の地賃、特賃の審議が終わった後の本審で次年度の必要性の審議の進め方を検討していただくと本年度の審議が円滑に進むのではないかと思います。

○千田会長代理

事務局から御提案がありましたが、ただ、強引に決めるわけにもいきませんので、これを踏まえて労使で今日出来るだけの話を出せるかどうかですね。

○松岡委員

出来れば、労使だけで御相談させていただきたいのですが、可能でしょうか。

○千田会長代理

労側どうでしょうか。

○労働側委員

はい。

○千田会長代理

では、労使で話し合ってください。

(労使委員別室で協議)

○千田会長代理

それでは審議を再開します。

労使で何か決まりましたか。

○小西委員

では、労側から発言させていただきます。

先ほど労使で議論させていただいた結果、労使それぞれ円滑に審議を進めていくということを踏まえまして、昨年同様必要性審議においては専門部会で応じていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

○千田会長代理

ありがとうございます。使用者側からは何かありますか。

○松岡委員

使用者側といたしましても円滑な審議に協力させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○千田会長代理

ありがとうございます。

それでは、労使で御議論していただいた結果、考えが一致に至りましたので、本年度も昨年同様、特定最低賃金の必要性の有無は各専門部会を設置して、そこで併せて審議するという結論でよろしいでしょうか。

○各委員

異議なし。

○千田会長代理

それでは、今年度、特定最賃の改正の必要性有無の審議については、昨年同様、各専門部会で併せて審議するということとしますので、事務局においては準備を進めておいてください。

では、最後の議題（５）「その他」ということですが、委員の方から何か御質問や御意見はございますでしょうか。

○各委員

（なし。）

○千田会長代理

では、事務局から何かありますか。

○安積賃金室長

今年度４月以降、審議会あてに提出されました要請書等について、報告させていただきます。

審議会資料の 178 ページから 180 ページを御覧ください。

まず、６月 19 日に兵庫県弁護士会から、「目安制度によらない地域別最低賃金の大幅引き上げと中小企業への抜本的な支援を講じることを求める会長声明」の提出がございました。

次に資料 181 ページから 183 ページを御覧ください。６月 27 日に兵庫県労働組合総連合から、「兵庫県の最低賃金を直ちに 1,500 円に引き上げること、全国一律最低賃金制度、中小企業支援の拡充を求める要請書」として 2,384 筆の個人署名が、兵庫労働局長、兵庫地方最低賃金審議会会長あてに提出されております。

最後に、資料 184 ページをご覧ください。７月 7 日に宝塚地区労働組合総連合から、「最低賃金の大幅引き上げと開かれた審議を求める意見書」が提出されております。

以上、当審議会に対して提出されている要請書等について御報告させていただきました。

○千田会長代理

ただ今、事務局から報告をしていただきました。今の内容で何か確認をされたいことがあれば、お願いします。

○各委員

(なし。)

○千田会長代理

では、最後に、事務局から次回の議事と日程について説明をお願いします。

○安積賃金室長

特定最賃につきましては、3月に意向表明がなされた7業種全てについてそれらの申出を既に受け付けております。7月1日に、鉄鋼業、はん用機械器具等製造業、電子部品機械器具等製造業、輸送用機械器具製造業、計量器等機械器具製造業、自動車小売業の6業種の申出を受けており、さらに7月4日に塗料製造業の申出を受け付けた状況となっております。そのため、次回本審においては、これらの特定最賃の改正の必要性の有無の諮問をさせていただき予定です。加えまして、今回は事業場の実地視察結果の報告も予定しております。

次回の開催日時につきましては、7月18日(金)午前10時、場所はこの会議室でお願いさせていただきたいと思っております。

○千田会長代理

では、今回は、特定最賃の改正の必要性の有無等の諮問を受けることと、事業場の実地視察の報告をすることになります。

次回の審議会は7月18日(金)午前10時に開催することとしたいと思っております。よろしいですか。

○各委員

異議なし。

○千田会長代理

それでは、次回の本審は7月18日(金)、午前10時からの開催とします。

また、次回本審の公開・非公開についてですが、昨年と同様、引き続き公開としたいと思います。

ただし議事のうち、個別事業場に対する実地視察の報告につきましては、特定の個人又は事業場に関する内容となりますので、個人情報や企業情報の保護に支障を及ぼすおそれがあるため、その部分についてのみ非公開としたいと思います。委員の皆様はよろしいでしょうか。

○各委員

異議なし。

○千田会長代理

最後に、事務局から他に何かありますか。

○安積賃金室長

特にございませぬ。

○千田会長代理

それでは、他になければ本日の審議会はこれで終了としたいと思います。皆さんどうもお疲れ様でした。

千田 直毅

森田 直樹

松岡 直哉